

保護者様

北九州市立清水小学校  
校長 恵良 尚美

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

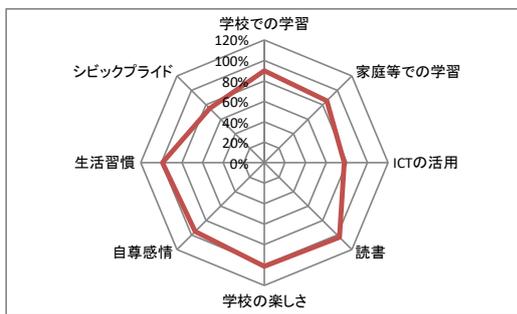
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	○「言葉の特徴や使い方」「話すこと聞くこと」「書くこと」に関する問題の正答率が高い ●「情報の扱い方」「敬語」に関する問題の正答率が低い
算数	○「数と計算」「変化と関係」に関する問題の正答率が高い ●「図形（正方形）（正三角形）（高さが等しい三角形）」に関する問題の正答率が低い

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」の問いに対して肯定的な回答が全国平均を上回っている。学級活動や縦割活動等を充実させていくことが、学校の楽しさや友達関係に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で取り組んでいく。
○「学校の授業時間以外での読書」「読書は好きですか」等の読書に関する問いに対して肯定的な回答が全国平均を上回っている。図書館整備、読み聞かせ等の環境面の充実が影響していると考えられる。
●「ICTの活用」に関して全国平均を下回っている。児童の学びを深めるためのツールとしての活用について、児童の指導と同時に教師の研修も充実させていく必要がある。
●「学校での学習」については、「自分の考えをもつ」「話し合い活動を通じて、自分の考えを広げる・深める」ことが課題である。子どもが楽しく、分かる授業をさらに追求し、授業改善を図っていく。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・各学級においては、学習規律を徹底させ、落ち着いた支持的風土の中で学習が進められるようにする。
- ・授業においては、「めあて」「まとめ」「ふり返し」を確実に行う。また、授業の中で自分の考えを書く活動やその考えを発表する活動の充実を図る。
- ・タブレット端末をはじめとしたICT機器を効果的に活用した授業づくりを推進する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習（自主学習）の手引きを作成し、自主学習の取り組みを強化する。また、家庭学習でAIドリル活用も推進していく。
- ・縦割活動や委員会活動等、児童が活躍した姿を学校通信やホームページ等で家庭に伝え、家庭でも児童をほめ、認められるようにしていく。